

「平成 23 年度外部点検結果」 に基づく対応

平成 2 4 年 2 月

福 井 市

目 次

1. 外部点検結果に基づく各事業の取組について

「縮小」	地域特産物振興事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 1
「拡大」	運動部活動活性化事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 2
「統合・再編」	健診業務委託事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 3
	環境展推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 4
	テレビ・ラジオ広報事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 5
	姉妹友好都市青少年交流事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 7
	養浩館茶席サービス事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 8
「維持」	(子育て・男女共同) 情報誌発刊事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 9
	介護者支援事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 10
	自主防災組織活動活性化事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 11
	地域子育て支援事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 12
	健康診査事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 13
	有害鳥獣駆除対策事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 14
	鑑賞教室事業【演劇鑑賞事業】・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 15
	消費者啓発事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 16
	学校施設開放事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 17
	企画展開催事業(美術館)・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 18
	まちなか活性化交流イベント事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 19
	【樹木イルミネーション事業】	
	就職支援事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 20
	歴史のみえるまちづくり普及事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 21

2. 外部点検対象事業についての予算一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 22

地域特産物振興事業

1. 外部点検の結果

委員会 結果	「縮小」	評価 理由	地域特産物振興の観点からは行政の支援の必要はあるが、事業の展望・効果についての検証も行わないまま、同一品種に対し恒常的に支援を続けることは問題であるため、事業を「縮小」する方向で見直す必要があると判断した。
改善 すべき 内容等	①対象となる地域特産物の選定理由を明確にするべきである。 ②将来的展望、最終的目標を明確にした上で、支援期間を限定し段階的な削減が必要である。 ③技能の保護・継承を目的とするのであれば、別の部局で支援を検討すべきである。 ④地域特産物の生産技術の継承という目的とするのであれば、若者層への働きかけも検討してもらいたい。 ⑤地域特産物のブランド化、PR活動など、総合的に取組んでもらいたい。		

2. 対応

(単位：千円)

今後の 方向性	平成22年3月に制定した「福井市近郊農業振興プラン」を基に、地域特産物振興の進め方を見直し、「地域特産物振興事業」は廃止とする。対象となっていた「金福スイカ」「赤かぶら」「菅笠」については、その成果を検証し、新たな取組として実施する。 「金福スイカ」の振興については、所管を農政企画課から園芸センターに移し、当面、量産化の可能性を見極めるため、苗の生産技術や栽培技術等の研究を行う。この研究成果を見極めたうえで、ブランド化に向けた事業の必要性を検討する。同時に、出荷奨励金により生産農家の意欲向上を図り秀品率の向上に努める。 「赤かぶら」の振興については、地域で受け継がれ食されてきた伝統野菜の維持・存続を目的とする「伝統の福井野菜支援事業」の中に位置づけ、純粋種の優良種子確保に対する支援を行うとともに、秀品を生産する農家の意欲向上を図ることにより、特に良質な河内赤かぶらの出荷数量の増加に努める。また、「菅笠」の振興については、地域特産物としての支援は終了する。		
改善すべ き内容等 に対する 取組	①福井市の開発した特産農産物の振興、市に伝わる伝統野菜の生産振興という観点から事業を行う。 ②・「金福スイカ」については、当面、量産化の可能性を見極めるため、苗の生産技術等の研究を行う。農家への苗の無料配布を有料配布(150円/本)に変更し、秀品の金福スイカには奨励金の支給を行う。 ・「赤かぶら」については、焼畑農法による純粋種の優良種子確保への支援を行う。また、生産農家の意欲向上を図るため焼畑農法により生産される秀品への出荷奨励金について加重配分を行う。 ・当面5年間を目処に実施する。 ③「菅笠」については、古来から伝わる技術の継承による地域振興(まちづくり)でもあることから、まちづくりを推進する支援策活用を検討を促す。 ④農業者の高齢化が進んでいることから、若手園芸農家への栽培奨励に取り組む。 ⑤・「金福スイカ」については、上記の研究成果を見極めたうえでブランド化に向けた事業の必要性を検討する。 ・「赤かぶら」については、福井の伝統野菜それぞれの特徴や歴史、料理法を紹介するなかで、料理ライブや試食・販売等のPR活動に取り組む。		
予算額	平成24年度予算額	平成23年度予算額	増減
	(園芸センター所管)		
	(新)金福スイカ振興事業 5,499	金福苗供給確保事業 1,800	3,699
	・金福苗6,000本育苗委託料 1,800	・金福苗6,000本育苗委託料 1,800	
	・(新)優良金福に対する出荷奨励 410		
予 算 額	・(新)金福スイカの技術的課題の研究経費 3,289		
	※(新)苗の有料配布による市の収入 900		
	(新)伝統の福井野菜支援事業 250	赤かぶら振興事業 270	△20
	・赤かぶら優良種子確保事業 150	・河内赤かぶら優良種子確保事業 160	
	・赤かぶら出荷奨励事業 100	・河内赤かぶら出荷奨励事業 110	
予 算 額		菅笠振興事業 270	△270
		・菅笠振興事業補助金 270	
合計	5,749	合計 2,340	3,409

(農林水産部 農政企画課)
(農林水産部 園芸センター)

運動部活動活性化事業

1. 外部点検の結果

委員会 結果	「拡大」	評価 理由	人間形成の上で、スポーツ活動は重要であり、体力のある子供達を育成することも必要である。現状として、外部指導者の位置付けが曖昧であること及び一流選手との交流の機会が少ないことから、事業を「拡大」すべきと判断した。
改善 すべき 内容等	①外部指導者は、資格制度を設けるなど選出の基準を明確にし、外部指導者の質の向上を図ってもらいたい。 ②一流選手との交流の機会の提供については、他団体や協会等との協力体制の構築を図ってもらいたい。		

2. 対応

(単位：千円)

今後の方向性	生徒の競技力の向上はもとより、運動する楽しさや喜びを味わわせ、生涯スポーツの基礎を培うために、外部指導者のさらなる充実を図る。また、他団体、協会との連携を密にすることで一流選手との交流(実技講習会)を充実させ、運動部活動を活性化していく。				
改善すべき内容等に対する取組	①外部指導者の資格制度を設けるなど選出の基準を明確にし、外部指導者の質の向上を図る。 ・外部指導者の選定基準を学校側に示し、年度末には選定基準に基づいた検証を行ってもらうことで外部指導者の質の向上に努める。 ・外部指導者への報償費の支給対象者を増員する。(36 名→40 名) ②一流選手との交流(実技講習会)の機会の提供については、他団体や協会等との協力体制を図る。 ・競技種目の選択及びトップアスリートの人選については、福井市中学校体育連盟の希望に基づき、競技団体や協会等と協議し、将来の展望や弱点の補強の視点を加えて決定していく。				
予算額	平成 24 年度予算額		平成 23 年度予算額		増減
	運動部活動地域連携推進事業	2,834	運動部活動地域連携推進事業	2,308	526
	・外部指導者に対する報償費	2,760	・外部指導者に対する報償費	2,250	
	・スポーツ安全保険料(外部指導者加入分)	74	・スポーツ安全保険料(外部指導者加入分)	58	
	トップアスリートに学べ技と心の事業	700	トップアスリートに学べ技と心の事業	500	200
	・一流指導者派遣に関する委託料	700	・一流指導者派遣に関する委託料	500	
	合計	3,534	合計	2,808	726

(教育委員会事務局 保健給食課)

健診業務委託事業

1. 外部点検の結果

委員会 結果	「統合・再編」	評価 理由	国民健康保険加入者に対し、人間ドック等の受診の機会を提供している点では事業の必要性はある。しかし、目的に対する目標設定、受診者の偏り、1人あたりの市の負担が高額となる点において、事業効果が不透明であることから、事業の内容も含め再編（見直し）を行うべきと判断した。
改善 すべき 内容等	①費用対効果について検証を行い、目的達成のための根拠ある目標を設定した上で、ドック以外の手段の検討や、対象者を年齢や収入額で限定する等の検討も行き、よりよい手段で有効に実施すべきである。 ②現在の事業内容のまま実施するのであれば、受益者が偏ることのないよう、市民に対し広く広報を行い、きちんと受診履歴を把握した上で、受診者の決定を行うべきである。		

2. 対応

（単位：千円）

今後の方向性	総合的な指導を受けることができる等の利点や、病気の早期治療及び食生活や生活習慣の改善による健康維持により医療費抑制が期待できる点から、人間ドック・脳ドックについて引続き実施する。ただし、人間ドックの実施にあたっては、より多くの被保険者が受診することによる医療費の削減を目指しつつ、偏ることのないよう前年度未受診者を優先して助成する。また、対象者や自己負担金等についても、今後の状況を踏まえて検討したい。				
改善すべき内容等に対する取組	①費用対効果の検証については、ドックにより早期治療を行った場合とドックを受けずに早期治療を行わなかった場合の医療費を比較する必要があるが、検証に長期間を要するため、人間ドック受診者の医療費の動向について注視していきたい。また、対象者については、今後の受診者数の実績に基づき、自己負担金等の見直しも含め、収入額ではなく対象年齢での限定について検討したい。 今後、他市の事例等を参考に、人間ドック・脳ドックのよりよいあり方を検討していく。 ②実施にあたっては、受診者が偏ることのないよう市民に対し、より一層の広報を行い周知に努める。また、受診履歴の管理をきちんと行い、前年度未受診者を優先して助成し、新規受診者の増加を図る。				
予算額	平成 24 年度予算額		平成 23 年度予算額		増減
	健診業務委託料	46,877	健診業務委託料	46,877	0
	・1 日人間ドック	43,425	・1 日人間ドック	43,425	
	・脳ドック	3,452	・脳ドック	3,452	
	合計	46,877	合計	46,877	0

※関連事業（広告に関してのみ）

予算額	平成 24 年度予算額		平成 23 年度予算額		増減
	保健衛生普及事業（※関連事業のみ）	704	保健衛生普及事業（※関連事業のみ）	521	183
	人間ドックパンフレット、人間ドックPRポスター、 （新）CM作成委託料		人間ドックパンフレット、人間ドックPRポスター		
	合計	704	合計	521	183

（福祉保健部 保険年金課）

環境展推進事業

1. 外部点検の結果

委員会 結果	「統合・再編」	評価 理由	環境問題は、地球規模で考えるものであり、その中で市としても、市民レベルでの取り組みの啓発や情報交換の場の提供は必要である。 しかし、対象が子供から企業まで幅広く、イベント主体の事業となっていることから事業の内容の再編(見直し)が必要であると判断した。
改善 すべき 内容等	①環境展の事業目的の幅が広い、市の役割も曖昧である。市の役割を明確にするとともに、民間の関与を今以上に多くし、民間への移行も含めた効果的な開催を検討すべきである。 ②環境問題に関する意識の高揚や知識の習得などの啓発は、単発的なイベントではなく年間を通し総合的に行うべきである。 ③市、企業、住民で、その年度に取り上げるべきテーマは何か、どういったことを行えば目的を達成できるのか、事業の目的に対しどういった手段が有効かといった本質論的な議論を積極的に行い、事業に反映させてもらいたい。		

2. 対応

(単位：千円)

今後の 方向性	環境展における市の役割やテーマの設定等も含めた事業内容については、福井市環境基本計画に掲げる、福井市の自然や都市環境を守り育てるとともに地球規模の環境問題に対応するために、見直しを行う。 見直しにあたっては、民間のより積極的な関与を図るため福井市環境推進会議(※)において、十分検討を行うこととし、具体的には、同会議において議論している「自然創造」「低炭素まちづくり」「環境産業創出」の三つの議題の中から、事業の年度テーマを設定するなど、中期的な計画を定め事業内容を検討していく。また、同会議の構成団体に対し、事業への積極的な参加協力も求めていく。 これらの検討結果を踏まえ、環境展開催経費については平成 24 年度補正予算で検討する。 なお、年間を通した環境問題に関する意識の高揚や知識の習得などの啓発は、環境に関する講座や学習会への環境アドバイザーの派遣や、職員等による環境ミニ講座により、既に実施しており、今後とも継続して実施する。 (※)福井市環境推進会議 福井市環境基本計画を推進するために設置した委員会で、市民・市民組織・事業者・行政で構成される。		
改善すべ き内容等 に対する 取組			
予算額	平成 24 年度予算額	平成 23 年度予算額	増減
	(補正予算での検討とする)	環境展推進事業 1,200 ・消耗品費 427 (会場看板・啓発パネル作成、親子クイズラリー参加賞等) ・会場設営費 450 ・会場借上料(福井県民ホール) 240 ・講演会等報償費 70 (活動発表者・学校等への謝礼(図書カード)、講演会講師謝礼) ・洗濯料 13	△1,200
	合計 0	合計 1,200	△1,200

(市民生活部 環境課)

テレビ・ラジオ広報事業

1. 外部点検の結果

委員会 結果	「統合・再編」	評価 理由	市民と行政をつなぐ大きな手段として広報事業は必要不可欠であり、そのための手段としてテレビ、特に地域に根ざした独自チャンネルを有するケーブルテレビやラジオの活用については有効である。しかし、メディアそれぞれの特性を活かした番組構成について、費用対効果を踏まえた検討を行い、広報を行う媒体の比重を見直す必要があると判断した。
改善 すべき 内容等	①ラジオ放送については拡大を、テレビ放送に関しては、ケーブルテレビによる番組内容を充実させることで、民放によるテレビ放送について縮小を検討してもらいたい。 ②モニタリングによる視聴者の意見や、専門家からの意見を積極的に取り入れて、市民の求める番組となるよう充実させてもらいたい。 ③インターネット時代を見据え、市としての情報提供の役割として、オンデマンド放送についても検討してもらいたい。		

2. 対応

(単位：千円)

今後の 方向性	メディアの特性と広報の役割を明確にした番組編成を行い、市民のニーズや提言を把握しながら番組を制作する。また、行政チャンネルとインターネットで、番組の二次利用を推進する。		
改善す べき内 容等 に 対 する 取 組	①メディアの特性と広報の役割を明確にした番組編成を行う。 ・民放テレビ広報は、4 番組を 2 番組に統合し、全ての番組を行政チャンネルで再放送する。 ・ラジオ広報は、夕方の通勤時間に合わせた情報提供番組を新設する。 ・行政チャンネルは、地上デジタル放送の普及に合わせハイビジョン化するとともに、地域・市民活動の紹介番組や市民参画番組の新設など、番組を再編成して内容を充実させる。 ②行政チャンネルに対する市民ニーズや提言を把握しながら番組制作することを目的に、番組モニターを委嘱する。 ③オンデマンド化に対応するため、テレビ広報番組をインターネットで動画配信する。		
予算額	平成 24 年度予算額	平成 23 年度予算額	増減
	(新)の番組名は、全て仮称 ラジオ広報 2,306 ・FM 福井「福井市政ガイド」(5 分、53 本) 668 ・街角放送「市役所通信」(10 分、52 本) 546 ・街角放送「情報 BOX ふくい」(5 分、52 本) 546 ・(新)街角放送「イブニングショット FUKUI」(5 分、52 本) 546	ラジオ広報 1,769 ・FM 福井「福井市政ガイド」(5 分、52 本) 655 ・街角放送「市役所通信」(10 分、53 本) 557 ・街角放送「情報 BOX ふくい」(5 分、53 本) 557	537
予算額	民放テレビ広報(2 番組 12 本) 16,632 ・(新)FBC「ほやほや福井」(15 分、6 本) 8,316 ・(新)ftb「ういらぶ福井 city」(15 分、6 本) 8,316	民放テレビ広報(4 番組 20 本) 21,431 ・FBC「こんにちは市民の時間です」(15 分、4 本) 4,419 ・FBC「市役所百貨店」(15 分、6 本) 6,297 ・ftb「こんにちは市役所です」(15 分、4 本) 4,418 ・ftb「なるほど！ふくいズ」(15 分、6 本) 6,297	△4,799

予算額	CATV 広報(番組制作) 21,058 ・「いきいき情報ふくい」(15 分、41 本) 8,211 ・「ズームアップまちづくり」(5 分、10 本) *8 月まで 自主制作・・・0 ・「週間市役所」(4 分、21 本) *8 月まで 2,757 ・コマーシャル(15/30 秒、13 本) 2,163 ・「ビデオライブラリー」(60 分、12 本) 2,520 ・「市役所情報局」(20 分、24 本) 既存映像活用+3 本新規制作・・・1,575 ・記者会見(30 分、12 本) 1,008 ・(新)「やろっさ福井」(15 分、14 本) *9 月～ 2,352 ・(新)「ふくチャンネル回覧板」(随時更新) *9 月～ 自主制作・・・0 ・(新)「市民の広場」*9 月～ 市民の映像等を活用・・・0 ・(新)資料映像(空撮)作成 420 ・(新)番組モニター会設置・運営 52	CATV 広報(番組制作) 18,900 ・「いきいき情報ふくい」(15 分、48 本) 8,064 ・「ズームアップまちづくり」(5 分、24 本) 自主制作・・・0 ・「週間市役所」(4 分、52 本) 6,825 ・コマーシャル(15/30 秒、12 本) 1,743 ・「ビデオライブラリー」(60 分、6 本) 1,260 ・「市役所情報局」(20 分、24 本) 既存映像活用・・・0 ・記者会見(30 分、12 本) 1,008	2,158
	合計 39,996	合計 42,100	△2,104

(総務部 広報広聴課)

姉妹友好都市青少年交流事業

1. 外部点検の結果

委員会 結果	「統合・再編」	評価 理由	子どもの文化交流として姉妹友好都市との交流は必要である。しかし、今の事業内容では魅力に乏しくニーズも少ないため、事業内容の再編(見直し)の必要があると判断した。
改善 すべき 内容等	①目的及びニーズに合った事業内容の検討を行うべきである。 ②毎年同一の団体に事業の実施を行わせることにより、参加者の偏りもみられるため、委託先の検討を行ってもらいたい。 ③参加した子どもの体験の発表の場を設けるなど、交流の輪が広がるような取組みも検討してもらいたい。 ④参加した子どもが、リーダーとして交流体験により得られた自主性・積極性を活かせるような次のステップを検討してもらいたい。		

2. 対応

(単位：千円)

今後の方向性	本事業は、熊本市、結城市との相互交流であり、福井市からの派遣に関しては熊本市側、結城市側がそれぞれで企画しているため、早急な事業(内容・日程)の見直しは難しいが、両市と意見交換を行い今後の改善を検討していきたい。 本市が企画している受入日程については、より福井市らしさを参加者が理解できるよう見直しをはかり、体験型、創造型活動等を取り入れた魅力あるプログラムとする。さらに、交流団員以外の子どもと交流活動を行い、より多くの子どもが交流事業に参加できるようにする。				
改善すべき内容等に対する取組	①過去参加者の現在の交流状況や交流事業の印象などのアンケートにより、事業効果の調査及びニーズの把握を行い、今後の事業内容についてさらに改善を検討していく。しかし、交流の時期については、夏休み冬休みの間に事業を行うことが学校との関係において適当と考えられるため、大幅な見直しはできないと考える。 ②偏りのない参加者構成、交流事業後のフォローアップ、魅力あるプログラム作成などが、現在の指導者報償費の範囲内で実行できる団体を調査し、委託先を検討する。 ③国内の都市との交流事業はその魅力が伝わりにくいところもあるのでとの観点から、従来の単なるイベント紹介の広報ではなく、事業としてその良さが伝わる広報に努める。そのためには、市政広報に加え、参加者の体験談をいれた広報番組を行政チャンネルで放送するなど、映像を駆使したPRを充実させていく。また、小中学生国際交流作品展や各種青少年事業(非行防止展等)などの機会を捉えて交流事業を紹介するパネル展示をする。 ④参加した子どもに対し、市の子ども会連合会主催の子ども大会において進行役として大会運営に参画させるなど、自主性、積極性を養っているが、さらに市子ども会連合会の夏季リーダーの集いや春季リーダー研修会への参加を促し、リーダー養成に力を入れる。またジュニアリーダーズクラブへの入会を働きかける。				
予算額	平成 24 年度予算額		平成 23 年度予算額		増減
	熊本市姉妹都市青少年交流事業 ・交流事業全般にかかる委託料	1,540 1,540	熊本市姉妹都市青少年交流事業 ・交流事業全般にかかる委託料	1,700 1,700	△160
	結城市友好都市子ども親善大使交流事業 ・交流事業全般にかかる委託料	905 905	結城市友好都市子ども親善大使交流事業 ・交流事業全般にかかる委託料	900 900	5
	合計	2,445	合計	2,600	△155

(教育委員会事務局 青少年課)

養浩館茶席サービス事業

1. 外部点検の結果

委員会 結果	「統合・再編」	評価 理由	養浩館という文化財を活用し、市の文化振興を行うことは理解できるが、市が負担して茶席を設ける必要はない。茶席に限らず、他の文化芸術も含めて活用を検討することが必要ではないかとのことから、事業内容の再編(見直し)が必要と判断した。
改善 すべき 内容等	①数ある文化芸術の中で茶道文化のみを市が育成するのではなく、文化芸術団体に対し、広く募集を行い、平等に機会を与えるべきである。 ②養浩館が、更に有効活用されるよう検討及び市民への周知に努めてもらいたい。		

2. 対応

(単位：千円)

今後の方向性	名勝である庭園や復原した建物の魅力を更に向上させることを目的に、訪れる方々へのおもてなし事業として「名勝養浩館庭園魅力向上事業」に再編する。 事業内容としては、数寄屋造建築と庭園の調和した養浩館の魅力を更に高めるため、侘び寂びの趣を創出する茶席の提供のほか、邦楽演奏や華道展示を実施する。実施にあたっては、各文化芸術団体に協力を求め、来園者のおもてなしに努めたい。 また地区の方々により親しんでいただくとともに、福井を訪れた観光客の散策、ウォーキング等に供するため、庭園の早朝無料開園を実施する。 今後とも養浩館の利用に関する周知を強化するとともに来園者アンケートの内容をふまえて、より多くの人が親しみ楽しめるようにしていきたい。				
改善すべき内容等に対する取組	①名勝養浩館庭園の魅力をさらに向上させるために、茶席開催期間中に月２回隣室にて邦楽の演奏を行う。また、茶席開催後の１１月の土日祝に華道展示を行う。なお、事業内容については、来場者や各文化芸術団体の意見を踏まえ、対応していきたい。 ②施設の利用については、ホームページの他、市の広報媒体であるラジオ番組等で更に周知に努める。また、まちなか観光の重要な要素である国指定名勝養浩館庭園をより身近に感じていただくため、早朝無料開園を実施する。				
予算額	平成 24 年度予算額		平成 23 年度予算額	増減	
	(新)名勝養浩館庭園魅力向上事業	2,000	養浩館茶席サービス事業	1,911	89
	・消耗品費(黒文字、懐紙ほか)	113	・消耗品費(黒文字、懐紙ほか)	128	
	・食糧費(茶菓子、抹茶、煎茶)	730	・食糧費(茶菓子、抹茶、煎茶)	680	
	・印刷製本費(チラシなど)	45	・印刷製本費(茶券)	52	
	・各団体に対する報償費	1,112	・修繕料(水屋用衝立修繕)	11	
	茶席、(新)華道展示、(新)邦楽演奏		・各団体に対する報償費	1,040	
			茶席		
	※茶席料は市の収入となる	1,200	※茶席料は市の収入となる	1,099	
	合計	2,000	合計	1,911	89

(教育委員会事務局 文化課)

（子育て・男女共同）情報誌発刊事業

1. 外部点検の結果

委員会 結果	「維持」	評価 理由	子育て支援、男女共同参画において行政の果たすべき役割は大きく、必要な情報を市民に提供することは、「子育て世代の手助けになる」、「男女共同参画への意識が向上する」ものであるため有効と判断した。
改善 すべき 内容等	①市民に広くアンケートを行うなどし、市民がどういった情報を求めているか等の客観的な視点に基づいて、検証を行うべきである。 ②配布先、配布方法について検討を行い、情報を広く市民に提供できる仕組みを考えてもらいたい。 ③編集委員にかかる負担が大きいのにもかかわらず報償費が少ないため、印刷費を削減するなどの工夫を行い、改善を図ってもらいたい。		

2. 対応

（単位：千円）

今後の方向性	情報誌「ほっと」は、少子化・核家族化によって、周囲から子育てに関しての情報を得にくくなっている親に対して、出産や子育てに関する情報を、今後も継続して提供していく。 また、情報誌「アイアム」についても、男女が互いを尊重し個性と能力を発揮できる男女共同参画社会の実現に向け広く市民の意識を啓発するため、男女共同参画に関する情報を、今後も継続して提供していく。 なお、継続するにあたっては情報誌に対する市民の意見を検証するとともに、配布先の拡大も検討しながら、より必要とされる情報を、より広く効果的に提供できるよう取り組む。				
改善すべき内容等に対する取組	①「ほっと」「アイアム」ともに、9月発刊号において、アンケート調査を実施し、その結果を今後の紙面づくりに活かす。 ②情報誌を、より多くの人に手にとって見ていただけるよう、編集や配布方法を工夫する他、印刷部数を増やして配布先の拡大を行うとともに、市政広報紙等で情報誌発刊をPRする。また、情報を広く市民に提供できる仕組みとして、多機能電話機（スマートフォン）での閲覧といった情報誌の電子書籍化について、今後、全庁的な課題として考えていく。 ③編集会議の開催数を2回増やして、1回あたりの編集委員の負担を軽減する。また、印刷費については紙質等を下げるなど経費抑制を図る。				
予算額	平成 24 年度予算額		平成 23 年度予算額		増減
	情報誌「ほっと」発信事業 1,165		情報誌「ほっと」発刊事業 712		453
	・編集委員への謝礼（編集会議：12 回開催） 246		・編集委員への謝礼（編集会議：10 回開催） 205		
	・食糧費（編集会議開催に伴う飲み物代等） 14		・食糧費（編集会議開催に伴う飲み物代等） 12		
	・「ほっと」印刷費 825		・「ほっと」印刷費 495		
	・「ほっと」郵送料 80				
	情報誌「アイアム」発信事業 759		情報誌「アイアム」発刊事業 735		24
	・編集委員への謝礼（編集会議：12 回開催） 306		・編集委員への謝礼（編集会議：10 回開催） 255		
	・食糧費（編集会議開催に伴う飲み物代等） 17		・食糧費（編集会議開催に伴う飲み物代等） 14		
	・「アイアム」印刷費 366		・「アイアム」印刷費 366		
・「アイアム」郵送料 70		・「アイアム」郵送料 100			
合計 1,924		合計 1,447		477	

（市民生活部 男女共同参画・子ども家庭センター）

介護者支援事業

1. 外部点検の結果

委員会 結果	「維持」	評価 理由	地域で介護を支えるという目的において、特に地域に根ざした認知症サポーターを養成する取組みは、高齢者社会に対応した優しい地域社会の構築につながっていくことから有効と判断した。
改善 すべき 内容等			①「徘徊探知機システム」については、携帯電話のGPS機能などの代替機器の普及もあることから、廃止も視野に入れて検討すべきである。 ②「介護者のつどい」については、介護者同士の情報交流の場として有効であることから、介護者に対してもっと周知を行い、参加者増を図ってほしい。 ③「認知症サポーターの養成」については、制度の周知を行い社会的認知度を上げる努力を行うとともに、サポーター自身の意識の向上、サポーターの活用を図ってほしい。

2. 対応

(単位：千円)

今後の方向性	「徘徊探知機システム」については、代替機器の利用等で対応可能と判断し、事業を廃止する。また、「介護者のつどい」「認知症サポーターの養成」については、市民への周知方法を再検討し、効果的に事業を展開していく。				
改善すべき内容等に対する取組	①代替機器の利用等で対応可能と判断し、「徘徊探知機システム」については事業を廃止する。なお、市民からの問合せ・相談に対しては、徘徊探知機及び代替機器等の各種サービスについて適切な情報提供に努める。 ②「介護者のつどい」については、広報手段について検討を行い介護者へ広く周知できるよう変更する。また、介護者が参加しやすい行程となるよう検討し、参加者の増加を図る。 ③制度を周知するため、新たな広報・啓発活動として街頭キャンペーンの実施を検討する。また、今後、段階的にサポーターの養成に取り組むとともにサポーター自身の意識の向上を図るため、養成講座の内容を充実させ、地域における活動の認識を深める。				
予算額	平成 24 年度予算額		平成 23 年度予算額		増減
	認知症理解普及促進事業	262	認知症理解普及促進事業	120	142
	認知症サポーター養成講座開催経費等	213	認知症介護サポーター養成講座開催経費	120	
	(新)街頭キャンペーン経費	49			
	介護者のつどい事業	1,122	介護者のつどい事業	1,125	△3
	・「介護者のつどい」開催にかかる委託料	1,122	・「介護者のつどい」開催にかかる委託料	1,125	
			徘徊高齢者家族支援サービス事業	19	△19
	合計	1,384	合計	1,264	120

(福祉保健部 長寿福祉課)

自主防災組織活動活性化事業

1. 外部点検の結果

委員会 結果	「維持」	評価 理由	自主防災組織に対する日頃からの防災意識を高める啓発事業は、組織を活性化させ、災害発生時における自主的活動に効果的であると判断した。
改善 すべき 内容等	①既存の自主防災組織については、防災リーダー研修を通して、防災意識の底上げを図ってもらいたい。 ②企業や各種団体といった組織に対しても、防災意識の啓発を行ってってもらいたい。		

2. 対応

(単位：千円)

今後の方向性	東日本大震災により市民の防災意識が高まっている中、市として、市民、自治会、自主防災組織等に対し、国や専門機関等により整理・検証された地震・津波等の最新の防災情報を発信する必要がある。 自主防災組織に対し、各種研修会にてこれらの情報提供を行い、地域の特性を理解するための図上訓練等を実施することにより、自主防災組織の一層の活性化を図っていく。 また、市民や各種団体等に対しても、テーマを絞った分かりやすい研修会や、女性に対する研修会を開催し、防災意識の啓発を行う。				
改善すべき内容等に対する取組	①平成22年度に作成・配布した防災訓練マニュアル等に基づく自主防災組織の活動・訓練を、消防局・消防団・地域の各種団体等と連携を図りながら推進する。また、自主防災組織リーダー研修会や自主防災教室(出前講座等)などに、地域の特性に着目した図上訓練活動(防災マップ作り、避難所運営図上訓練等)を取り入れ実施することで、防災意識の高揚に取り組む。 ②市民や各種団体等に対し、地震・津波・風水害等の災害の種類や規模ごとにテーマを絞った研修会の開催や、救護・避難所運営等女性ならではの活動に対する積極的な女性の参画を求めるため、婦人会等の女性団体に対しても、女性対象の防災研修会の開催に取り組む。				
予算額	平成24年度予算額		平成23年度予算額	増減	
	自主防災組織活動活性化事業	435	自主防災組織活動活性化事業	350	85
	自主防災組織リーダー研修会	25	自主防災組織リーダー研修会	15	
	参加者飲み物代、消耗品代		参加者飲み物代		
	自主防災組織中核リーダー研修会	137	自主防災組織中核リーダー研修会	85	
	参加者飲み物代、消耗品代、講師謝礼、講師旅費・宿泊費、講師弁当代、案内用切手代		参加者飲み物代、消耗品代、講師謝礼、講師弁当代、案内用切手代		
	テーマ別防災研修会	94	テーマ別防災研修会	85	
	参加者飲み物代、消耗品代、講師謝礼、講師旅費・宿泊費、講師弁当代、案内用切手代		参加者飲み物代、消耗品代、講師謝礼、講師旅費・宿泊費、講師弁当代		
	※年1回の開催を年2回の開催に				
	自主防災教室(出前講座等の開催)	110	自主防災教室(出前講座等の開催)	150	
消耗品代、図上訓練等用印刷代		消耗品代 (デジタルカメラ、図面訓練用図面、資料作成)			
(新)女性等対象防災研修会	69				
参加者飲み物代、消耗品代、講師謝礼、講師弁当代		その他事務諸経費	15		
		自主防災組織関係事務所内消耗品			
合計	435	合計	350	85	

(総務部 防災センター)

地域子育て支援事業

1. 外部点検の結果

委員会 結果	「維持」	評価 理由	地域コミュニティとの連携は行政として重要な課題である。その一環である地域ぐるみの子育て支援は必要であり、そのための保護者間及び子供に関する関係団体間のネットワーク作りは有効であると判断した。
改善 すべき 内容等	①行政として関与する立場を明確にするとともに、方向性を具体化し、その上で活動についての検証を行い、結果を事業に反映すべきである。 ②若者層や児童館、子育てサークル等と連携することで、更なるネットワーク強化を図ってもらいたい。		

2. 対応

(単位：千円)

今後の 方向性	各福井市地域子育て支援委員会(以下、「委員会」という。)の取組が有効なものとなるよう、地区における子育て支援の方向性を明示するとともに、活動内容の精査・検証に努め、適切な施策に繋げる。また、有効性の高い取組について各委員会に対し情報提供に努めるなどして子育て環境整備の効果的な推進を図る。 ちく・たくサポーター事業(※)は、平成 22 年度に開始した事業であり、まだ各地区においてサポーターが整っているとは言えない。今後、さらに制度の周知を行い、サポーターの登録増、利用の拡大に努める。 (※)ちく・たくサポーター事業 公民館区域、小学校区域における公共性のある団体が主催する地域のイベント等に、子育て世帯が参加しやすくするため、身近な地域で子育ての手伝いとして一時預かりができる人を「ちく・たくサポーター」として募集・登録し、派遣する事業。		
改善す べき内 容等 に 対 する 取 組	①地区における子育て支援、少子化対策を推進するため、子どもの安全・安心の確保や子育て中の親同士の仲間作りなど、補助対象内容の明確化を図る。行政は、補助申請(受付)時に活動の妥当性について精査するとともに、効果的な活動となるよう委員会に対し助言を行う。また、事業終了(報告)時には検証を行い、効果的な取組については各地区に紹介するなどして、委員会全体の向上に繋げる。 ②多様な意見や視点を取り入れるため、委員会に対し青年層からの委員登用を呼びかける。また、地区内のネットワーク強化を図るため、委員会に地区内の子育て関係団体等への情報提供を促す。更に、市内の子育てサークルや学生ボランティア等に対し、委員会委員が集まる連絡会議への参加を呼びかけ、連携を強化し情報の交換や共有化を図る。		
予算額	平成 24 年度予算額	平成 23 年度予算額	増減
	地域子育て支援委員会事業 4,840 補助金(46 地区)、講師謝礼、会議出席報償費、 (新)消耗品費、飲み物代、事例報告集印刷代	地域子育て支援委員会 4,621 補助金(44 地区)、会議出席報償費、 飲み物代、事例報告集印刷代	219
	地域住民子育て応援事業 454 ・地域住民子育て応援会議 300 補助金(2 地区) ・子育てマイスター交流会 154 講師謝礼、消耗品費、飲み物代、 開催案内郵便料、 会場使用料(福井県自治会館)	地域住民子育て応援事業 801 ・地域住民応援会議 600 委託料(4 地区) ・子育てマイスター交流会 201 講師謝礼、消耗品費、飲み物代、 開催案内郵便料、 会場使用料(福井県県民ホール)	△347
	ちく・たくサポーター 119 派遣回数に応じた活動謝礼、 登録者募集用チラシ印刷費、 ボランティア保険料、 (新)申請書等作成用コピー用紙	ちく・たくサポーター事業 136 ポイント用景品、 登録者募集用チラシ印刷費、 ボランティア保険料	△17
	合計 5,413	合計 5,558	△145

(市民生活部 男女共同参画・少子化対策室)

健康診査事業

1. 外部点検の結果

委員会 結果	「維持」	評価 理由	多くの市民にがん検診等の機会を提供することは、市民の健康の維持・増進、予防（早期発見・早期治療）の観点から必要である。未受診者や社会的弱者等への対応も出来ていることから、今後も有効性が期待出来ると判断した。
改善 すべき 内容等	①受診日・受診場所など、見直しを行える部分は適時見直しを行い、事業の効率化を図ってもらいたい。		

2. 対応

（単位：千円）

今後の 方向性	事務の効率化に取り組むとともに、がん検診未受診者に対し電話や訪問による受診勧奨事業に取り組んでいくことで、自主的な健康づくりの支援を行う。		
改善す べき内 容等 に 対 する 取 組	①昨年度及び今年度の受診状況を見ながら、病院の立地、交通の状況等の地域性を考慮し、検診日程及び検診の人員配置などの見直しを図る。		
予算額	平成 24 年度予算額	平成 23 年度予算額	増減
	健康診査事業 257,283 ・健診及びがん検診業務委託料 238,800 ・郵便料 13,069 ・その他 5,414	健康診査事業 259,521 ・健診及びがん検診業務委託料 237,198 ・郵便料 15,140 ・その他 7,183	△2,238
	合計 257,283	合計 259,521	△2,238

（福祉保健部 保健センター）

有害鳥獣駆除対策事業

1. 外部点検の結果

委員会 結果	「維持」	評価 理由	市民の生命・身体・財産を害する恐れのある鳥獣を駆除することは市として必要な事業であり、継続して実施することで事業の有効性が確保されると判断した。
改善 すべき 内容等	①「市民生活の安全のため」を目的とする本事業と「農作物への被害防止」を目的とする類似事業の 2 つの取組みについて、総合的な目標を設定した上で、効果を検証しながら連携して取り組むべきである。 ②駆除を行うだけでなく、住民に対しても、鳥獣に対する正しい知識の普及や被害を防ぐためのゴミの管理の徹底などについての広報、教育を行ってほしい。		

2. 対応

(単位：千円)

今後の 方向性	関係所属と連携しながら、市民の安全安心な生活環境を維持するため、有害鳥獣駆除対策事業を継続していく。		
改善す べき内 容等 に 対 する 取 組	①「市民生活の安全」と「農作物への被害防止」についての総合的な目標の設定は困難であるため、農作物への被害防止を担当する所属など関係所属や関係団体との連携を一層強化し、継続して捕獲を実施する。また、カラスの生息数調査を実施するとともに、農作物の被害調査を継続して実施し、効果の検証も行っていく。 ②関係所属機関と連携を図って、ゴミの管理の徹底などについて、引続き取り組んでいく。		
予算額	平成 24 年度予算額	平成 23 年度予算額	増減
	有害鳥獣駆除対策事業 9,000 ・委託料 7,860 有害鳥獣捕獲業務、カラス檻維持管理業務、 (新)カラス生息数調査業務等 ・手数料(アライグマ安楽死等) 910 ・消耗品費(爆竹等) 164 ・わな保険料 66	有害鳥獣駆除対策事業 9,000 ・賃金(有害鳥獣捕獲業務) 3,680 ・委託料(カラス檻維持管理業務) 3,618 ・手数料(アライグマ安楽死等) 1,000 ・負担金(狩猟免許取得費用) 29 ・消耗品費(爆竹等) 159 ・講習会会場使用料(アオッサ) 8 ・備品購入費(カラス檻) 506	0
	合計 9,000	合計 9,000	0

(農林水産部 林業水産課)

鑑賞教室事業【演劇鑑賞事業】

1. 外部点検の結果

委員会 結果	「維持」	評価 理由
		演劇を鑑賞する機会の少ない子供達に対し、昭和44年度から継続して実施している事業であり、芸術・文化に触れる1つのきっかけ、チャンス子供達に平等に与えることは、心豊かな人材を育成する教育の一環として有効と判断した。
改善 すべき 内容等	①毎年同一の委託業者に鑑賞内容の決定を任せるのではなく、子供達や教師の現場の声、意見を次年度の取組みに活かしてもらいたい。そのために、市は、直接実施することも含め積極的に関わらるべきである。 ②演劇鑑賞に関する感想文の活用など、子供の感性を伸ばす工夫、感性の秀でた子供に対する次の働きかけも検討してもらいたい。	

2. 対応

(単位：千円)

今後の方向性	芸術・文化に対し興味や関心を持ち、地域文化の振興の一翼を担う子どもたちを育成するため、市としても積極的に関わり、5歳児、小学校6年生、中学校2年生の全員に教育的に質の高い演劇や能楽・狂言に触れる機会を提供する。				
改善すべき内容等に対する取組	①委託業者の業務は、出演者の選定・依頼から会場や日程、内容の調整、輸送、会場整理、コーディネートから当日の運営・人員確保まで多岐に渡っており、これらを総括して適切に運営可能な団体に委託することが望ましいことから、現在と同じ業者が適切であると考え。劇団や演目の決定は、今後も子どもたちの感想・教師の意見を活かすようにし、劇団・関係団体との協議に市としても積極的に関わっていく。 ②演劇鑑賞後は、鑑賞した感想等を各対象年齢に応じ劇遊びや授業に取り入れるなど学習の場との連携を図っている。今後は、演劇や能楽に興味を持った子どもがさらに文化芸術に触れる機会を得られるよう、福井近辺で開催される公演案内を教育現場を通じて広報する。				
予算額	平成 24 年度予算額		平成 23 年度予算額		増減
	(学校教育課所管)		(学校教育課所管)		
	鑑賞教室事業	9,300	鑑賞教室事業	9,300	0
	・事業実施委託料・・・幼稚園(演劇鑑賞)	1,292	・事業実施委託料・・・幼稚園(演劇鑑賞)	1,292	
	・ " 小学校(演劇鑑賞)	3,534	・ " 小学校(演劇鑑賞)	3,534	
	・ " 中学校(能楽鑑賞)	4,474	・ " 中学校(能楽鑑賞)	4,474	
	(保育課所管)		(保育課所管)		
	演劇鑑賞事業	1,058	演劇鑑賞事業	1,058	0
	・事業実施委託料・・・保育園(演劇鑑賞)	1,058	・事業実施委託料・・・保育園(演劇鑑賞)	1,058	
	合計	10,358	合計	10,358	0

(教育委員会事務局 学校教育課)
(福祉保健部 保育課)

消費者啓発事業

1. 外部点検の結果

委員会 結果	「維持」	評価 理由	消費者トラブルが複雑化、多様化している中、消費生活に関する正しい知識の普及、情報提供、意識啓発は今後も必要であると判断した。
改善 すべき 内容等	①消費者まつりは、消費者意識の啓発という目的であるにもかかわらず、事業内容が物産販売や試食コーナーなど集客に偏ったものとなっていると思われるため、啓発内容の充実を図ってもらいたい。 ②市が主催する他のイベントや他の機関、団体と連携することで、啓発の機会を増やしてもらいたい。		

2. 対応

(単位：千円)

今後の 方向性	複雑多様化する消費者問題による消費者被害の未然防止や拡大を防ぐとともに自立した消費者を増やすために、若年層の取組を強化しながら、幅広い年代層に消費生活の正しい知識や情報提供などの普及啓発を行う。		
改善す べき内 容等 に 対 する 取 組	①消費者問題の最新情報や啓発等のビデオの活用や展示物の工夫など、事業内容の拡充策を提案し、福井市消費者まつり実行委員会に諮っていく。 ②若者への啓発を強化し、幅広い年代層に普及・啓発を行うため、各大学や自動車学校、各種イベント等を通じ、消費者啓発を行っていく。		
予算額	平成 24 年度予算額	平成 23 年度予算額	増減
	消費者月間啓発事業 223 街頭啓発、若者啓発キャンペーン、 その他啓発用品、 学生向け啓発活動	消費者月間啓発事業 223 街頭啓発、若者啓発キャンペーン、 その他啓発用品	0
	消費者まつり開催事業 1,450 啓発用品、参加者粗品、看板代、チラシ印刷代、 フェニックスプラザ大・小ホール使用料、 係員弁当代、補助金(展示用材料費)、 教室等協力金	消費者まつり開催事業 1,450 啓発用品、参加者粗品、看板代、チラシ印刷代、 フェニックスプラザ大・小ホール使用料、 係員弁当代、補助金(展示用材料費)、 教室等協力金	0
	事務諸経費 19 ケーブル回線使用料、インターネット受診料	事務諸経費 19 ケーブル回線使用料、インターネット受診料	0
	合計 1,692	合計 1,692	0

(市民生活部 消費者センター)

学校施設開放事業

1. 外部点検の結果

委員会 結果	「維持」	評価 理由	市民に対するスポーツ活動の場の提供は必要であり、利用者が非常に多いことから有効と判断した。
改善 すべき 内容等	①不特定多数の人が使用するため、マナーの悪い人への対応など管理の問題を整理し、問題点があれば改善していくべきである。 ②利用料金体系の見直しも検討してもらいたい。		

2. 対応

(単位：千円)

今後の方向性	市民に有効に活用されている事業であるため、今後も継続して事業を推進する。また、利用者への対応等、管理の問題を改めて整理し、問題があれば改善を行う。 また、効率的かつ利用者が安全で快適に利用できる事業運営方針を検討していく。				
改善すべき内容等に対する取組	①利用者への対応等、管理の問題について、今後も管理人との報告を密にして対応するとともに、問題点を改めて整理し、問題点があれば改善を行っていく。 ②利用料金体系の見直しについては、中学校体育館の利用状況を踏まえた上で、周辺の地域体育館の利用料金体系とのバランスも考慮し、検討していきたい。				
予算額	平成 24 年度予算額		平成 23 年度予算額		増減
	学校体育館開放事業	12,180	学校体育館開放事業	12,000	180
	・管理員謝礼	12,060	・管理員謝礼	11,880	
	・消耗品費	120	・消耗品費	120	
	学校プール開放事業	13,420	学校プール開放事業	17,450	△4,030
	・管理委託料	11,000	・管理委託料	15,000	
	・消耗品費	50	・消耗品費	50	
	・医薬材料費	1,250	・医薬材料費	1,200	
	・手数料	1,120	・手数料	1,200	
	学校ナイター施設開放事業	3,250	学校ナイター施設開放事業	3,250	0
・管理委託料	1,100	・管理委託料	1,200		
・消耗品費	50	・消耗品費	50		
・電気料	1,600	・電気料	1,500		
・修繕料	500	・修繕料	500		
	合計	28,850	合計	32,700	△3,850

(教育委員会事務局 スポーツ課)

企画展開催事業（美術館）

1. 外部点検の結果

委員会 結果	「維持」	評価 理由	優れた芸術文化に触れる機会を提供し、人々に感性・癒しを与える本事業は必要である。また、時代の変化に合わせ、各企画展の有効性を検証している点や、マスコミと連携した事業を展開している点を評価した。
改善 すべき 内容等	特になし		

2. 対応

（単位：千円）

今後の 方向性	今後、開催回数を増やすことは難しいが、質の向上を目指し、時代や市民のニーズを踏まえることはもちろん、美術館として市民に知ってもらいたい、また、知ってもらうべきと考える芸術分野や作家の魅力的な作品を紹介していく。そして、更に市民一人一人に感動と刺激を与え、生きていくうえで心の糧となるような重要な役割を持たせていきたい。		
改善す べき内 容等 に対する 取組	特になし		
予算額	平成 24 年度予算額	平成 23 年度予算額	増減
	企画展開催事業 ・シャガール展 ・山下清展 ・岸田劉生展 ・藪内佐斗司展 ・企画展調査研究費 40,000	企画展開催事業 ・長倉洋海写真展 ・ウルトラマンアート展 ・異文化にみるデザイン展 ・熊谷守一展 ・企画展調査研究費 45,000	△5,000
	合計 40,000	合計 45,000	△5,000

（教育委員会事務局 美術館）

まちなか活性化交流イベント事業【樹木イルミネーション事業】

1. 外部点検の結果

委員会 結果	「維持」	評価 理由	現在の電力事情、中心市街地の賑わいの点から事業の有効性について疑問もあるが、中央公園～福井駅前～アップルロードまでの広範囲にわたり回遊性があり、観光産業を誘発する可能性もあることから、事業は継続すべきと判断した。
改善 すべき 内容等	①人が集まることで事業の有効性が図られることから、更なる市民、企業との連携強化が必要である。特に、地元商店街の協力が不可欠であるため、商店街が参加しやすい企画内容を加えるなどの工夫を行い、更なる連携を図ってもらいたい。		

2. 対応

(単位：千円)

今後の方向性	賑わいのある中心市街地となるよう、県・関係各部・民間企業・商店街組合・市民(団体)と連携をとりながら、市民や関係団体により一層の参加を求め、市民参加型イベントとして実施していく。				
改善すべき内容等に対する取組	①県と市が別々に実施していたイルミネーション会議を一本化することで、コンセプト・方針の策定に対し、統一感や官民連携を図り、市民や商店街が参加しやすい、回遊性のあるイベントの創出に取り組む。				
予算額	平成 24 年度予算額		平成 23 年度予算額		増減
	(中心市街地振興課所管) ※冬のイルミネーションに関する事業のみ		(中心市街地振興課所管) ※冬のイルミネーションに関する事業のみ		△1,000
	まちなか活性化交流イベント事業	5,000	まちなか活性化交流イベント事業	10,000	
	ふくい冬のイルミネーション事業委託料	5,000	ふくい冬のイルミネーション事業委託料	10,000	
	まちづくり会社支援事業	4,000			
	クリスマスツリー設置にかかる委託料	4,000			
	(観光開発室所管) ※冬のイルミネーションに関する事業のみ		(観光開発室所管) ※冬のイルミネーションに関する事業のみ		0
	樹木イルミネーション事業	5,000	樹木イルミネーション事業	5,000	
	ふくい冬のイルミネーション事業委託料	5,000	ふくい冬のイルミネーション事業委託料	5,000	
	合計	14,000	合計	15,000	△1,000

(都市戦略部 中心市街地振興課)
(商工労働部 観光開発室)

就職支援事業

1. 外部点検の結果

委員会 結果	「維持」	評価 理由	昨今の雇用情勢を考えると、失業対策として本事業は必要である。国・県・民間で行っている類似事業とのすみわけも行っており、求職者の意識の向上、涵養においても有効であると判断した。
改善 すべき 内容等	①各コースの中で開催されるプログラムの決定について、委託業者に任せるのではなく市も参加するべきである。 ②プログラムについては、雇用企業の声も踏まえて設定してもらいたい。 ③委託先の選定にあたっては、有識者等による第3者にて選定を行うなど検討を行ってもらいたい。		

2. 対応

(単位：千円)

今後の 方向性	今後も雇用情勢の変化をふまえ、コース設定、開催時期などを見直しながら実施していきたい。				
改善す べき内 容等 に 対 する 取 組	①各コースのプログラム内容の決定については、委託業者の提案を活かしながら、引続き、市としても関わっていく。 ②雇用企業にも講師等で参加してもらうなど、企業の声を取り入れたプログラム内容となるよう、検討を行う。 ③委託先の選定は、外部機関の方にも加わってもらい事業企画案プロポーザル選定会にて行っている。引続き、今後も選考委員として、外部機関の方にも加わってもらう。				
予算額	平成 24 年度予算額		平成 23 年度予算額		増減
	就職支援セミナー事業	6,417	就職支援セミナー事業	6,417	0
	・事業実施委託料	5,364	・事業実施委託料	5,364	
	・選考会開催に伴う飲み物代等	7	・選考会開催に伴う飲み物代等	7	
	・新聞広告費等	1,046	・新聞広告費等	1,046	
	合計	6,417	合計	6,417	0

(商工労働部 労政課)

歴史のみえるまちづくり普及事業

1. 外部点検の結果

委員会 結果	「維持」	評価 理由	歴史資源を活かした活動の機会を提供すること、特に子供達に福井の歴史に感心をもってもらふ観点から有効と判断した。
改善 すべき 内容等			①「歴史講座」については、類似の事業を様々な機関で行っていることから、福井市ならではの特色を持たせ、新たな市民層を増やす努力が必要である。 ②「子ども歴史クラブ」については、参加した体験等の発表の場を設けるなど、成果を広く活かす工夫が必要である。 ③事業には、子どもの教育、観光、歴史という内容が含まれているので、それぞれの事業の目的を明確にした上で、どの部局で担当するのが効果的かについても検討してもらいたい。

2. 対応

(単位：千円)

今後の方向性	市民の郷土に対する誇りと愛情の高揚を図るため、各事業の目的を明確にし、福井の特色を活かした内容にて事業を実施することにより、福井の歴史を広く市民に知らせる。			
改善すべき内容等に対する取組	①「歴史講座」については、市独自の特色ある講座とするため県内に限らず最善の講師を招くなど内容を充実させ、新たな市民層を増やしていきたい。そのため、講座の回数を年2回から1回に減らすことで全体の経費の削減を図る。また、若い世代の参加が少ないことから、フェイスブック等での広報も検討する。 ②「子ども歴史クラブ」については、宿泊研修を追加するなどより楽しく郷土の歴史に触れられるよう内容の検討を行うとともに、体験談を翌年度の募集チラシに掲載するなど、成果を活かす工夫を行う。 ③今後、組織の再編成に関しては、事業内容を考慮し内部で協議の上検討していきたい。			
予算額	平成 24 年度予算額		平成 23 年度予算額	増減
	歴史講座開催事業 ・事業実施委託料	500 500	歴史講座開催事業 ・事業実施委託料	531 531 △31
	子ども歴史クラブ事業 ・事業実施委託料	316 316	子ども歴史クラブ事業 ・事業実施委託料	300 300 16
	まちなか観光ガイド配置事業 ・事業実施委託料	684 684	まちなか観光ガイド配置事業 ・事業実施委託料	782 782 △98
			歴史小説朗読会 ・事業実施委託料	387 387 △387
	重要建造物詳細調査事業 ・事業実施委託料 ※昨年度は、歴史小説朗読会の実施により未実施であった。	300 300		300
	合計	1,800	合計	2,000 △200

(商工労働部 歴史のみち整備推進室)

外部点検対象事業についての予算一覧表

(単位:千円)

点検結果	対象事業名	24年度 予算額 (a)	23年度 予算額 (b)	増減 (a)-(b)	備 考
縮小	地域特産物振興事業	5,749	2,340	3,409	金福スイカ:体制強化 菅笠:廃止 赤カブラ:維持
拡大	運動部活動活性化事業	3,534	2,808	726	外部指導者への謝礼制度:拡大 トップアスリートによる実技講習会:拡大
統合・再編	健診業務委託事業	46,877	46,877	0	人間ドック:前年度未受診者を優先に助成
	環境展推進事業	0	1,200	-1,200	福井市環境推進会議での時間をかけた協議が必要と判断し、継続協議。
	テレビ・ラジオ広報事業	39,996	42,100	-2,104	民放テレビ:縮小 CATV:拡大 ラジオ:拡大
	姉妹友好都市青少年交流事業	2,445	2,600	-155	受入日程の見直し、広報の強化、交流の拡大。
	養浩館茶席サービス事業	2,000	1,911	89	養浩館の魅力向上を目的に、「名勝養浩館庭園魅力向上事業」として新たに実施。
維持	(子育て・男女共同) 情報誌発刊事業	1,924	1,447	477	配布対象の拡充。
	介護者支援事業	1,384	1,264	120	認知症理解普及促進事業:拡大 介護者のつどい事業:維持 徘徊高齢者家族支援サービス事業:廃止
	自主防災組織活動活性化事業	435	350	85	
	地域子育て支援事業	5,413	5,558	-145	
	健康診査事業	257,283	259,521	-2,238	今後、受診者の推移により補正予算等対応。
	有害鳥獣駆除対策事業	9,000	9,000	0	
	鑑賞教室事業 【演劇鑑賞事業】	10,358	10,358	0	
	消費者啓発事業	1,692	1,692	0	
	学校施設開放事業	28,850	32,700	-3,850	実績に基づく予算の縮減。
	企画展開催事業(美術館)	40,000	45,000	-5,000	企画展の内容、開催方法等による経費の縮減。
	まちなか活性化交流イベント事業 【樹木イルミネーション事業】	14,000	15,000	-1,000	予算の縮減。
	就職支援事業	6,417	6,417	0	
	歴史のみえるまちづくり普及事業	1,800	2,000	-200	
合 計		479,157	490,143	-10,986	

※【 】は、点検対象関連事業